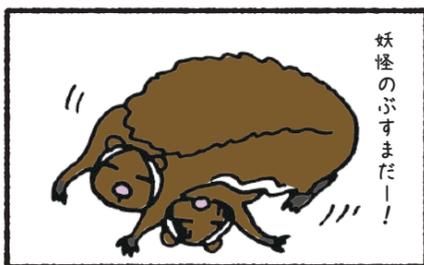


たかおさん

「兄弟ケンカの事件簿」の巻



※のぶすま=方言で「ムササビ」のこと。

夏の高尾山、こんなことに注意!

その1 熱中症に気をつけよう

「暑さしのぎに高尾山へ!」という方が少なからずいらっしゃると思いますが、夏場の高尾山の気温は、過去**39.0℃**にまで達した日があるほどの厳しさ!!毎年、熱中症による救急搬送の事例も少なくありません。登山の際には、**こまめな水分補給を心がけましょう。**

その2 夜の高尾山で気をつけよう

この時期、山内ではビアガーデンが行われており、ケーブルカーも夜9時まで運行しているなど、とても賑やかな印象の夜の高尾山ですが、外灯があるのは薬王院までで、その先の山頂方面は日没後真っ暗闇となります。軽率な行動が大きな事故を招きかねない夜の高尾山、**十分な下調べと、事前準備を心がけましょう。**

また、今回の一面記事でも取り上げたように、夜の高尾山はたくさんの生きもの達の暮らしの場でもあります。騒いで、彼らの生活の邪魔をしないよう、十分注意して下さい。

※移入について、一般の方の引き抜き行為はご遠慮いただいています。自己判断はせず、ぜひ窓口まで情報をお寄せください。

盗るもの植えるもの

11 らむ vol.6

「昨日までであったキンランが無くなっちゃった!」登山客の方の悲しい声が時おりビジターセンターに届けられます。残念なことですが、高尾山ではこのような盗掘被害が後を絶ちません。

一方、今度は研究路の目立ったところに突如セイヨウスズランが現れました。人為的に植えられたことが明確であったこのスズランは、後日都レンジャーの手によって引き抜かれることとなりました。「どうして?」「かわいそう!」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、このスズランはなぜ引き抜かれなければならないのでしょうか?

自然界では、多種多様な生きものたちが絶妙なバランスで互いに関わり合っています。本来そこにあったものがある日突然無くなったら?無かったものがやってくる?自然本来のバランスが崩れたとき、その影響は私たちには計り知れません。

であるからこそ私たちにできることは、在るものを守り、無きものは持ち込まない、ということなのかもしれません。

盗る者あらば植える者あり。私たち解説員は、このような問題に関するお問い合わせの窓口であることはもちろん、高尾山を訪れる方々ひとりひとりに、この山でのマナーやルールについて一緒に考えていただけるような場をつくること、そのことこそが真の使命なのではないか、と、密かに胸を熱くするのです。(キンちゃん、戻ってきてー涙)

高尾山山頂から発信!

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

vol.44 季刊
2016年夏号

推理編

早朝の高尾山の登山道には不思議なものが落ちています。実は、この痕跡から昨晩そこで行われた動物の暮らしが推理できます。どんな動物たちが暮らしているのでしょうか...

無残に切り落とされたドングリの枝...

バラバラの昆虫の死骸...

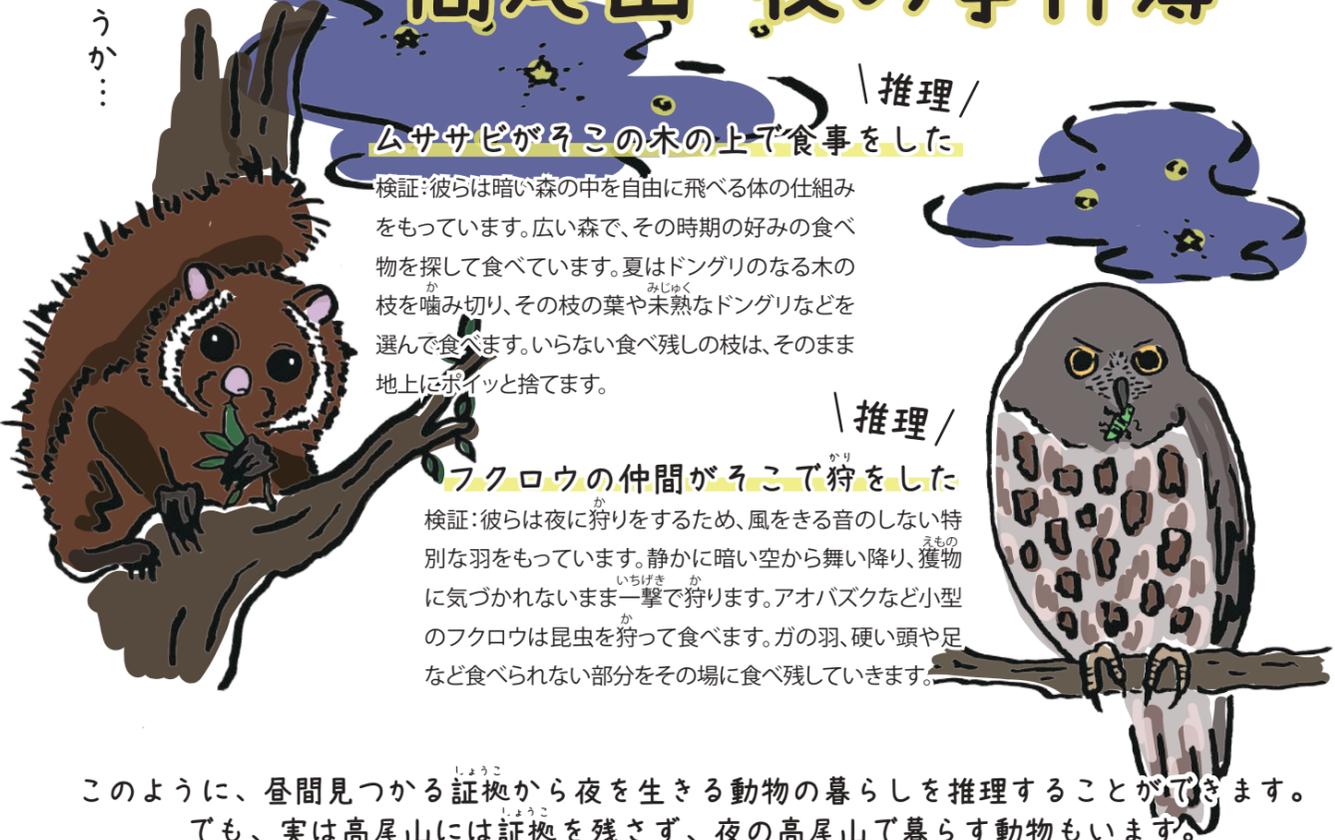
高尾山 夜の事件簿

推理 / ムササビがその木の上で食事をした

検証:彼らは暗い森の中を自由に飛べる体の仕組みをもっています。広い森で、その時期の好みの食べ物を探して食べています。夏はドングリのなる木の枝を噛み切り、その枝の葉や未熟なドングリなどを選んで食べます。いらぬ食べ残しの枝は、そのまま地上にポイッと捨てます。

推理 / フクロウの仲間がそこで狩をした

検証:彼らは夜に狩をするため、風をきる音のしない特別な羽をもっています。静かに暗い空から舞い降り、獲物に気づかれぬまま一撃で狩ります。アオバズクなど小型のフクロウは昆虫を狩って食べます。ガの羽、硬い頭や足など食べられない部分をその場に食べ残していきます。



このように、昼間見つかる証拠から夜を生きる動物の暮らしを推理することができます。でも、実は高尾山には証拠を残さず、夜の高尾山で暮らす動物もいます。夜の高尾山とは一体どんな世界なのでしょう...

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

解説員 宇井

